

第30回 国民文化祭かごしま・2015 ～本物 鹿児島県～文化維新は黒潮に乗って～

平成27年
10月31日(土)～11月15日(日)
9:00～17:00 (期間中無休)
南種子町
広田遺跡ミュージアム

アートディレクター、ワークショッピング

森脇 裕之 Hiroyuki Moriwaki

レジデンスアーティスト

木村 崇人 Takahito Kimura

千田 泰広 Yasuhiro Chida

黒潮が育んだ文化と宇宙芸術展

広田遺跡からロケットへ



主催：文化省、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、南種子町、南種子町教育委員会
第30回国民文化祭鹿児島県実行委員会、第30回国民文化祭南種子町実行委員会

©Yasuhiro Chida
Brocken 6+



第30回国民文化祭
鹿児島県実行委員会会長
鹿児島県知事 伊藤 祐一郎

第30回国民文化祭・かごしま2015に、ようこそお越しいただきました。全国から多くの出演者や観客の皆様をお迎えして開催できることは大変喜ばしいことであり、心から歓迎いたします。

鹿児島県は、南北約600キロメートルにわたる広大な県土に、世界自然遺産の屋久島をはじめ、奄美などの特色ある島々、桜島や硫黄島等の火山、変化に富んだ長い海岸線など、多様で豊かな自然を有しています。こうした環境のもと、古くから黒潮の流れに乗って、南方との様々な交流がなされ、鉄砲伝来やキリスト教の布教といった、遠くヨーロッパの文化にも触れてきました。

幕末の19世紀後半には、反射炉や機械工場の建設など産業の近代化を進めた集成館事業や英国留学生派遣などを通じ、積極的に西洋技術・文化を取り入れており、特に集成館事業については、本年7月、日本の重工業分野における急速な産業化の道程を証言する「明治日本の産業革命遺産」として、世界文化遺産に登録され、産業国家日本の礎を築いた先人たちの偉業が改めて評価されたところです。

いわゆる大和文化圏と琉球文化圏との接点である鹿児島県には、個性豊かな祭礼行事や民俗芸能、多様な生活文化、伝統的工芸品が受け継がれており、現在においても、今やアジアを代表する音楽祭として高い評価を得ている霧島国際音楽祭をはじめ、中国、韓国、香港、シンガポール等との文化芸術交流など、海外との長年にわたる幅広い交流が行われています。

このような特色を有する鹿児島県で、「本物。鹿児島県～文化維新は黒潮に乗って～」をテーマに開催する国民文化祭は、本格的に離島をも舞台とする初の大会であり、開会式では、メイン会場の鹿児島市と、サテライト会場の種子島の西之表市、奄美大島の奄美市をライブ中継で結び、3つの会場で1200人を超える出演者により、広大な県土のスケール感と一体感を表現します。

また、個性ある歴史や食の宝庫鹿児島ならではの食文化、離島の魅力などを発信する155もの多彩な事業が、県内43全ての市町村で繰り広げられます。

参加される皆様には、日頃の活動の成果を十分発揮されますとともに、多くの方々との出会いや交流の輪を広げていただき、第30回の節目にふさわしい記憶に残る大会となりますよう念願しております。

終わりに、本県での国民文化祭の開催に当たり、多大な御支援と御協力をいただきました多くの皆様に心から感謝を申し上げます。



第30回国民文化祭
南種子町実行委員会会長
南種子町長 名越 修

ようこそ、南種子町へお越しくださいました。国民文化祭は、「文化の国体」とも呼ばれる芸術文化の祭典です。

今年は、鹿児島県が開催県となり、鹿児島県内の全ての市町村で、全国的な規模での芸術文化の催しが行われています。本町では、「黒潮が育んだ古代文化と宇宙芸術展」と「種子島歌い継がれた民謡と踊りの祭典」を開催いたします。

南種子町は、鉄砲伝来の地であるとともに、宝満神社の赤米、国史跡広田遺跡など、黒潮を介した交流の中で育まれた豊かな歴史・文化が息づく町です。また、ロケットの打上げ基地を有する宇宙に一番近い町でもあります。

本展示会では、国重要文化財「広田遺跡出土品」に代表される黒潮交流が生み出した多彩な古代文化と、宇宙のまちから最先端の芸術分野である「宇宙芸術」を発信する展示を行います。展示計画等の企画にあたっては、南種子町内的一般の方々が企画委員として参画し、様々なアイデアが出され町民参加型の展示会をめざしてきました。特に、「宇宙芸術展」では、地域の方々が一流のアーティストとともに宇宙芸術活動に参加し製作された魅力的な作品の数々をご鑑賞いただければと思います。

結びに、本展示会の開催にあたり、多くの皆様のご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

黒潮が育んだ古代文化と宇宙藝術展

黒潮が育んだ古代文化と宇宙藝術展は、古代文化と宇宙藝術のコラボレーションをめざしています。黒潮は、琉球列島の島々を縫うように北へ流れ、南の島々の文化を種子島・鹿児島本土に伝えてきました。本展示会では、そうした黒潮が育んだ古代文化の結晶ともいえる、国重要文化財「広田遺跡出土品」などの考古資料の展示を行います。

また、本展示会は、計画段階から町民の皆さんに企画委員として参加していただき、様々なアイデアをいただきながら、いわゆる参加型の展示会をめざしてきました。そうした意見交換のなかで、ロケット基地を有する種子島は、宇宙を身近に感じられる空間であること、その種子島で、新しいアート分野である「宇宙藝術」の展示会をしてみたいという雰囲気が生まれ、この展示会は実現しました。宇宙藝術のアーティストは、南種子町に滞在し、地域の方々とともに作品をつくりあげました。公募いたしました「宇宙人イラスト」には、南種子町の全ての小学生が作品をかきあげ応募されました。

このように本展示会では、地域参加型で実現した、下記の展示を行います。ごゆっくりご鑑賞ください。

アーティストインレジデンスによる宇宙藝術作品

宇宙藝術ワークショップ「宇宙人かかし」

宇宙×藝術クロニクル

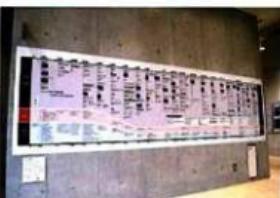
宇宙藝術パネル展示

・宇宙藝術公募作品展「宇宙人イラスト」

・貝殻アート公募作品展

・国重要文化財「広田遺跡出土品」

・黒潮が育んだ古代文化





会場 シャトルバスのご案内

乗り場名	1便	2便	3便	4便	5便
南種子町役場前	10:45	11:45	13:10	14:15	16:10
広田遺跡ミュージアム前	11:05	12:05	13:30	14:35	16:30
宇宙科学技術館前	11:25	12:25	13:50	14:55	16:50
南種子町役場前	11:40	12:40	14:05	15:10	17:05

宇宙藝術

宇宙藝術

今年夏に「なぜ、人は宇宙をめざすのか」という本が上梓されました。宇宙に本格的に進出する時代になったときに、人類はどのように変化するかという研究を、JAXA や学識者たちによってまとめられたものです。いよいよそのような時代が訪れるのだと感心するとともに、この取り組みは、宇宙を見つめることによってわれわれが立っている地球とは？生命とは？人間そのものの存在を根本から問い直すことにつながってゆきます。

ロケットや人工衛星の実現は、われわれの住む地球を宇宙からながめる視点をもたらしてくれました。宇宙から見てみると、ちっぽけな地球には限られた資源しかないことがあからさまになり、国と国の争いもむなしいものに思えて、人々の認識が大きく変わってゆくことがわかりました。宇宙藝術は新しい時代のために、新しい認識を自分たちのものにするために藝術作品を通じて問いかけてゆくものです。

まだ科学技術も発達していない遠い昔に、古代人は高度な天文学的知識を持っていたことが知られています。望遠鏡もない時代にすごい集中力で、どんな些細なことも見逃さないように天空に目を凝らしていたはずです。考えようによつては、宇宙科学が発達した現代よりも、彼らにはもっと宇宙が身近にいたのではないかと想像できます。そして彼らは星の運行を調べて宇宙の構造を解明すると同時に、夜空の暗闇のなかに神話や伝説の世界を見いだして、豊かなイメージーションを広げてゆきました。宇宙をとらえるということは、科学技術の探究であると同時に文化の発展でもあったわけです。

宇宙を身近なものにとらえ直す活動は、宇宙藝術に受け継がれてゆきます。宇宙藝術は、古代と現代という両極にある膨大な長い時間を一氣につなぎ、はるかな宇宙空間と地上にある人々の生活のあいだを結びつける試みです。われわれも宇宙的な大きな摂理のもとに抱かれていることを知り、原点に戻って自分の存在についてとらえ直すきっかけを見つけることになるでしょう。

* 「なぜ、人は宇宙をめざすのか」

「宇宙の人間学」から考える宇宙進出の意味と価値

『宇宙の人間学』研究会編 講文館新光社 2015年



写真1:「ペットボトルロケット」森田裕之 2014年

アートディレクター

森脇 裕之 Hiroyuki Moriwaki

多摩美術大学情報デザイン学科准教授。LED アート作品「レイヨ = グラフィー」(1990 年)をはじめ体験型のメディア・アート制作を続けてきた。2014 年の「ミッション [宇宙×芸術] 展」(東京都現代美術館)など宇宙芸術の企画展に参加。総合ディレクターとして「種子島宇宙芸術祭」開催を準備している。イベントとなるワークショップ「こども宇宙芸術」では、南種子町のこども達が全員参加した。



「宇宙×芸術クロニクル」について

『宇宙×芸術クロニクル』は、古代から始まって宇宙と芸術に関する事象を見渡すために作成されたアーカイブの試みです。「宇宙×芸術」「アート＆カルチャー」「宇宙開発×天文学」の 3 項目を軸に、古代から現代まで続く時代のなかで、科学と芸術の関連性を比較しながら宇宙芸術への理解を深める目的で作成されました。

この年表は宇宙芸術コミュニティ beyond の企画協力による「ミッション [宇宙×芸術]」展(東京都現代美術館、2014 年)で展示された「宇宙×芸術クロニクル」年表(青幻舎『ミッション [宇宙×芸術] コスマロジーを超えて』に所収)をベースに編集されたプロトタイプであり、以降も改訂を重ねていく予定です。

協力=東京都現代美術館/青幻舎



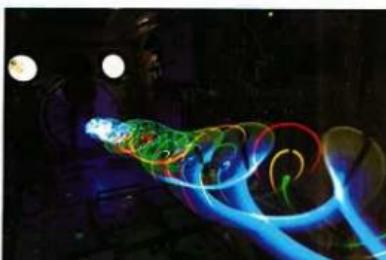
注釈*

宇宙藝術研究コミュニティ beyond とは。

beyond は、宇宙藝術及びデザインの創造による新しい世界觀の構築を目的としたコミュニティです。研究会と公開イベント等を通じた宇宙藝術の実践・啓蒙普及などの活動を行っています。



写真:「星空イルミネーション-宇宙はみんなでできている-」



参考写真:「Spiral top-II Aurora Oval」(坂本卓郎/JAXA 2011)

「雲になる日」～種子島に舞うだいち2号～

雲は水の変化した姿の一つです。雲から雨が降り、降った雨は川になって海へ流れ込み、再び蒸発して雲になります。水の姿は刻々と変化しながらこの地球上で循環しています。そして水はどの姿の時であっても生命の営みに絶対欠かすことができません。

私達も雲のように地球上の循環において必要不可欠なものになりたいと考えています。風や太陽の熱を感じたり、変化する時の流れを感じたり、自分が雲になったり・・・自然と向き合うことで、私達『人』も水のように自然の現象の一部なのだという視点を再認識した時に、宇宙の存在もより身近になるのではないですか。

南種子町に降り注ぐ太陽光を利用して、島民の方々とワークショップで制作した日光写真の作品は、島の文化や自然、ここで暮らす人たちが被写体となっています。青は空を、白は雲に見立てています。また、種子島宇宙センターから打ち上げられた地球観測衛星として活動するだいち2号の実寸をイメージし、移動可能なピクニックシートにしました。自然豊かな大空の下でピクニックシートを利用することで、さらに日常に宇宙を感じてください。



レジデンスアーティスト

木村 崇人 Takahito Kimura

(現代美術家) 1971 年生まれ。愛知県出身。東京藝術大学大学院博士課程修了。

Ecole Supérieure d' Art et de design de Reims (フランス) 卒業。

「地球と遊ぶ」をテーマに地球や自然の見えない力を知覚化、視覚化させる作品を制作し、世界に発信している。



雲になる日～種子島に舞うだいち2号～作品制作の様子

「1,443km/h」



作品遠景

北緯30度25分に位置する南種子町平山の作品設置場所は、地球の軸を中心に考えると時速1,443kmで円運動をしています。これは音速を上回る速度ですが、太陽を中心に考えるとさらに速い速度で地球は移動しています。普段、地面は動かずいつも同じ場所で暮らしているように感じられますが、地球や太陽、銀河や宇宙を中心に考えると、私たちは猛烈な速さで広大な宇宙空間を漂流し、二度と戻れない場所を移動し続けているのです。

この作品は、草原の中に建てられた建物に入り鑑賞する作品です。細い草の道を分け入り作品内部に入ると、光の像が現れます。上部には太陽の視直徑と南種子町の太陽高度に合わせ、1,040本のパイプが取り付けられています。細く長いパイプは太陽光を限定的に透過させ、中に嵌められた40色のガラスは光に異なる色と模様を与えます。これにより地球の自転が数分毎に変化し続ける映像へと変えられます。

全体の形状は双四角錐半柱という、16の正三角形による多面体です。一年を通じて太陽光を取り入れられること、作品内部で光が伸び、微かな変化をより顕著に見せることを両立させています。

光を取り入れるパイプはビニルハウスの支柱から、壁面は建築現場の足場板から作られています。内壁は砂や貝、外壁は麻油で仕上げられ、床には広田海岸で集められた珊瑚が散き詰められています。視点を変えることで、見慣れたものに別の価値を与えることは、宇宙の中の私たちの存在を見つめなおす視点にも通じるもので。

月の引力による音楽・海の音を背景に、時間と空間という宇宙を構成する二つの次元によって定義される速度が描く、静かに移ろう光を眺めながら、私たちの暮らすこの世界に常に流れている時間や、遠くの星との関係に想いを馳せて頂けたらと思います。



レジデンスアーティスト

千田 泰広 Yasuhiro Chida

武藏野美術大学建築学科専攻。高所登山やケーピングなどのフィールドワークを行い、空間の知覚と体性感覚の変容をテーマに、空間を実体化する作品を制作。

2015 Arte LagunaPrize finalist(イタリア)他、受賞、展示、舞台美術等多数。

現在長野県の Sha の森にアートパークを建設中。



作品内部



「宇宙人かかし」

国民文化祭での「こども宇宙芸術」のテーマは、親しみやすい「宇宙人」です。南種子町にあるすべての小学校が参加して全校児童が、宇宙人の性格を示すチャート図を手がかりに、宇宙人イラストを描きました。

さらに五・六年生はイラストをもとにして「宇宙人かかし」の制作に取り組みました。リサイクルセンターの協力で集まった廃材や古着などの材料をうまく利用して、イメージにあてはまるガラクタを見つけて、機転をきかせて宇宙人をパワーアップさせたりしながら、想像力に満ちた個性的な「宇宙人かかし」を作りあげました。



アートディレクター
森脇 裕之 Hiroyuki Moriwaki



宇宙芸術作品「宇宙人イラスト」

南種子町のすべての小学生が参加し、描いた300体を越える宇宙人たち。架空の宇宙人を描くとき子ども達の想像力は、無限に広りました。



南種子町のすべての小学生を対象にワークショップを行いました。ワークショッププログラムは、アートディレクターの森脇裕之先生が開発しました。

わたしはうちゅうじん。
みんなのともだちです。

わたしのなまえは（ ）です。

わたしのとくいわざは（ ）です。

わたしのすきなたべものは（ ）です。

小学生	<input type="checkbox"/>
高学年	<input checked="" type="checkbox"/>

宇宙人アンケートに答えると、描きたい宇宙人のイメージがわいてきます。

宇宙人です。

宇宙人の名前
（ ）
こんな目に遭っています。
（ ）
どうして地球にやってきたか?
（ ）



宇宙人です。

宇宙人の名前
（ ）

こんな目に遭っています。
（ ）

どうして地球にやってきたか?
（ ）

小学生	<input type="checkbox"/>
高学年	<input checked="" type="checkbox"/>

宇宙人アンケート



貝殻アート展

○公募展

鹿児島県と種子島の古代文化の特徴の一つとして、黒潮が育んだ大型の貝を加工し製作した精緻で華麗な貝製品があります。

そこで、本企画展では、貝殻アート作品を一般公募し、展示を行います。また、貝殻アートのワークショップ（貝殻アート、螺鈿アート）を開催し、貝殻アートの魅力と古代の貝文化について体験し、貝殻アートを身近に感じていただきました。

○貝殻アートワークショップ（平成27年10月17日（土）実施）

講 師：梅北 公子（NPO 法人こどもと自然研究所 理事）



○螺鈿アートワークショップ

（平成27年10月17日（土）実施）

講 師：神垣 夏子（漆芸家）



作品展示状況

黒潮が育んだ古代文化

南から北へ

ロケット射場

黒潮は文化をつなげました。

縄文時代、奄美・沖縄諸島の面鏡前庭式土器は種子島に伝わりました。種子島・屋久島で数多く出土する松山式土器は、喜界島にも及びました。弥生時代、中九州の免田式土器は、種子島を経由し、沖縄諸島まで及びました。種子島の鳥ノ峯式土器は沖縄諸島伊江島にまで届いた可能性があります。奄美・沖縄諸島からは、サンゴ礁の海に生息する大型の貝殻が種子島、鹿児島へ運ばれ、腕輪の材料として珍重されました。

黒潮はたしかに文化をはこび、育てたのです。

国史跡 広田遺跡

黒潮が育んだ古代文化を象徴する砂丘の遺跡

広田遺跡

その砂浜から、ロケットの射場を一望できます。

過去から未来へ、広田遺跡からロケットへ…

不思議なつながりがそこにはあるようです。

国重要文化財広田遺跡出土品

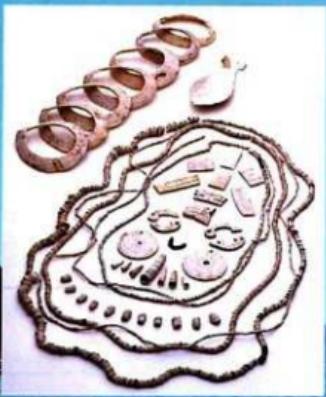


国史跡広田遺跡は、弥生時代の終わり頃から7世紀にかけての集団墓地です。

墓地に埋葬されていた人々は、白い大きな貝殻で、腕輪やネックレス、ペンダントなどをつくり、うつくしく身を装う文化をもっていました。

その白く大きな貝は、イモガイやゴホウラなど、奄美・沖縄諸島のサンゴ礁の海でしか採れないもので、広田人は、黒瀬を介した交易で手に入れました。

4万4千点におよぶ、華麗で多彩な広田遺跡の出土品は、国の重要文化財に指定されています。



国重要文化財 広田遺跡出土品



国史跡 広田遺跡

黒潮が運んだ文物

黒潮は、奄美・沖縄諸島から、
サンゴ礁に生きる珍しい貝や不思議な形の土器を種子島にもたらした。



面縄前庭式土器 — 縄文時代 —

種子島・鹿平小田遺跡

鹿平小田遺跡は、南種子町島間字小平山にある。縄文時代後期を中心とする遺跡。この遺跡から出土した面縄前庭式土器は、奄美・沖縄諸島に固有の土器で、縄文時代に、奄美・沖縄諸島から種子島へとつながる交流があったことを示している。

ゴホウラ製腕輪 — 弥生時代 —

種子島・阿波洞穴遺跡

阿波洞穴遺跡は、中種子町熊野海岸の洞穴にある、弥生時代を中心とする遺跡。この遺跡から出土したゴホウラ製腕輪は、弥生時代中期の北部九州で流行するタイプのもので、その材料となったゴホウラ貝は、奄美・沖縄諸島のサンゴ礁の海で採れたものである。



ゴホウラ製腕輪 — 古墳時代 —

種子島・島間仲ノ町遺跡

島間仲ノ町遺跡は、南種子町島間字仲ノ町の旧島間中学校にほど近い場所にある。古墳時代の墓地遺跡である。この遺跡は、広田遺跡によく似た遺跡だとおもわれるが、正式な発掘調査は行われていない。遺跡から採集されたこの腕輪は、ゴホウラ貝を材料とし、広田遺跡とよく似たタイプに加工されている。



カムイヤキ — 中世 —

種子島・日ノ丸遺跡

日ノ丸遺跡は、南種子町中之下字日ノ丸にある、中世を中心とする遺跡。この遺跡から出土したカムイヤキは、徳之島で製作されたもので、中世においても、奄美諸島から種子島へとつながる交流があったことを示している。



宇宙をみあげた古代の人々

藤平小田遺跡の環状列石（ストーンサークル）



藤平小田遺跡からみつかった縄文時代後期の環状列石。屋久島を望む台地のうちにつくられた、この大きな環状列石の性格は不明だが東日本の環状列石の中には、季節毎の太陽の位置と環状列石の配置が符号するものが知られている。

広田遺跡の貝符



広田遺跡から出土した貝符の文様は、日本列島に類例がない。文様は、民族固有の文化を示す。貝符文様は、古代種子島広田人の宇宙観を示すのかもしれない。



黒潮が育んだ古代文化と宇宙芸術展

古代文化×宇宙芸術をテーマに、これから種子島×考古学×宇宙芸術について
ディスカッションいたします。

日時：平成 27 年 11 月 7 日 13 時 30 分～16 時 00 分

場所：宇宙科学技術館 オーディトリウム

プログラム

主催者あいさつ

第 30 回国民文化祭南種子町実行委員会

会長 名越 修（南種子町長）

基調講演

「黒潮が育んだ古代文化と宇宙芸術」

講師：港 千尋氏（写真家 多摩美術大学教授）

パネルディスカッション

コーディネーター 港 千尋氏

パネリスト

中川 幾郎（帝塚山大学名誉教授）

佐古 和枝（関西外国語大学教授）

森脇 裕之（多摩美術大学准教授）

大塚 成志（JAXA）

閉会のあいさつ

黒潮が育んだ古代文化と宇宙芸術

講師：港 千尋 MINATO Chihiro
(写真家 多摩美術大学教授)



星座の動きや月の満ち欠けはもとより、地上と天上の風景を重ねあわせる想像力はさまざまな宇宙観を生み出し、今日でも多くの神話や儀礼や技芸にその形を残しています。石器時代の芸術も含め、天と海と地の間にひろがる、通かたアトリエを訪ねてみたいと思います。

天は原初の学校であり、星は最初にして最大の教師です。もし星の教えと助けがなかったら、わたしたちはいまあるような文明を築けなかっただろう。最後の最後に登場した自然界の新参者としての人間は、天の移ろいを観察し、自然界の動きを読み解くことで、なんとかして自然を手なづけようとした。太平洋の大海底を自在に移動した海洋民にとって、星座と潮目は古代のナビゲーションシステムにほかなりません。

古代文明はそれぞれ独自の天文学と曆を発達させましたが、天という教室のなかで科学と芸術は別々の科目ではありません。わたしたちが今日芸術と呼んでいる幅広い表現活動の萌芽は、人類が星空との対話を重んじていた時代に生まれたものです。



港 千尋 MINATO Chihiro (写真家 多摩美術大学教授)

1960年神奈川県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。2013年より国際交流基金国際展事業委員を務める。群衆や記憶など文明論的テーマをもつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーション等、幅広い活動を続けている。著作『記憶ー創造と想起の力』(講談社/1996)でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。2006年に金山ビエンナーレ共同キュレーターを、2012年に台北ビエンナーレ共同キュレーター、2007年にはヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館のコミッショナーも務めた。著書に『洞窟へ』(セリカ書房)『芸術回帰論』(平凡社新書)『フランスの色景』(青弓社)など多数。あいちトリエンナーレ2016では芸術監督を務める。

パネルディスカッションパネリスト紹介

コーディネーター 港 千尋 Chihiro Minato

パネリスト

中川 幾郎 × 佐古 和枝 × 森脇 裕之 × 大塚 成志

Ikuro Nakagawa

Kazue Sako

Hiroyuki Moriwaki

Seiji Ohtsuka



中川 幾郎 Ikuo Nakagawa

帝塚山大学名誉教授

1946年大阪府生まれ。同志社大学経済学部卒業後、大阪府豊中市役所に勤務。1996年広報課長を最後に豊中市役所を退職、97年から帝塚山大学法政策学部助教授として行政学や地方自治論、都市政策論などの講義を担当。2000年、大阪大学大学院国際公共政策研究科で博士号取得(国際公共政策)。同年教授。2014年3月、帝塚山大学退職。

【主な役職】大阪府人事委員、滋賀県文化審議会会長、奈良県公認認定等審議会会長、自治体学会副理事長、日本文化政策学会顧問、日本コミュニティ政策学会副会長ほか多数



佐古 和枝 Kazue Sako

関西外国语大学教授

鳥取県米子市出身。同志社大学大学院修士課程修了。考古学の成果を広く一般に伝えるために、研究・執筆の傍ら、市民講座やイベントを企画・主宰。市民グループ「自然と遺跡と人間を考える会」の代表として、破壊の危機に瀕した鳥取県妻木晩田遺跡の保存運動に取り組む。現在、「むきばんだ応援団副団長」として活動。著書「ようこそ考古学の世界へ」(中央公論社)など多数。日本考古学協会理事。



森脇 裕之 Hiroyuki Moriwaki

多摩美術大学

情報デザイン学科准教授

LEDアート作品「レイヨ・グラフィー」(1990年)をはじめ体验型のメディア・アート制作を続けてきた。2014年の「ミッショントリニティ展」(東京都現代美術館)など宇宙芸術の企画展に参加。総合ディレクターとして「種子島宇宙芸術祭」開催を準備している。プレイベントとなるワークショップ「ここも宇宙芸術」では、南種子町の子ども達が全員参加した。



大塚 成志 Seiji Ohtsuka

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)
第一宇宙技術部門事業推進部計画マネージャ

1992年に慶應義塾大学商学部を卒業後、宇宙開発事業団(現JAXA)に入社。2010年1月から2012年3月まで種子島宇宙センターに管理課長として勤務し、この期間に鹿児島県主催の「地域密着型ビジネスフォーラム2012」において「宇宙とエンタテイメントと芸術から考える離島観光」と題するパネルディスカッションに参加。

事例報告

種子島宇宙芸術祭

森脇 裕之 Hiroyuki Moriwaki

(多摩美術大学准教授)

「宇宙に一番近い島」種子島は、宇宙というテーマが地域文化として人々に身近に親しまれているところです。この宇宙の島でアーティストが宇宙と向きあって、新しい創作の場ができあがることを願って「種子島宇宙芸術祭」の開催を計画しています。

種子島における宇宙芸術は「自然と技術と文化の融合」を目標にしています。この島にある豊かな自然や歴史と、宇宙センターに象徴されるような最先端科学技術、そして生活感あふれる文化が会って、この種子島で見たことのない楽しい姿を見せてくれることが期待できるでしょう。

これまでに 2012 年から宇宙芸術祭のプレイベントを実施してきました。小学校でのワークショップ、小さな規模ですが町のなかのスペースを活用した宇宙芸術作品の設置、ロケット祭への参加などを積み重ねて、宇宙芸術を核にした文化と教育の向上、観光促進につながるような地域振興の流れができあがりつつあります。

そして、2017 年の種子島宇宙芸術祭では、種子島の全島でさまざまなアート作品が登場することになります。宇宙の島であることを全国にアピールするような、星空観測のイベントなども計画されています。また種子島の豊かな食文化を紹介できるような取り組みや、地域の交流プロジェクトも加わって、種子島の魅力が全国に伝わるような芸術祭をめざします。

事例報告



写真1：宇宙を平和にするロケット



写真2：ミッション in Tanegashima 参加作品「百億の星と千億の夜」岡根真紀



写真3：「壁屋の星度」(イメージ画像 by 大平貴之)

第30回国民文化祭かごしま・2015「黒潮が育んだ古代文化と宇宙芸術展」

主 催：文化庁、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、南種子町、南種子町教育委員会

第30回国民文化祭鹿児島県実行委員会、第30回国民文化祭南種子町実行委員会

編 集：第30回国民文化祭南種子町実行委員会事務局

印 刷：有限会社てらだ

発 行：第30回国民文化祭南種子町実行委員会

住所：〒891-3792 鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1 Tel.0997-26-1111

